

住民組織におけるソーシャル・キャピタル ー結合型と橋渡し型に焦点をあててー

松本千晴

1. はじめに

住民組織は、地域のソーシャル・キャピタル (Social capital : 以下 SC と記す)¹の醸成において、重要な役割を担ってきた²。また、住民組織はそれ自身が SC でもある³。SC はその性質から、結合型 SC と橋渡し型 SC に分けることができる。結合型 SC は社会的アイデンティティがメンバー内部において似ているグループ内でアクセスできるリソースであり、橋渡し型 SC は、社会的アイデンティティの境界を越えた人脈を介して個人やグループによってアクセス可能なリソースのことを指す⁴。これを住民組織に当てはめると、結合型 SC は、組織の内部におけるメンバー同士の結びつきにより得られるものであり、橋渡し型 SC は、異なる者や組織とのつながりによって得られるものであると捉えることができる。また、この結合型 SC と橋渡し型 SC は、どちらか一方に分けられるものではなく、よりその傾向が大きい、小さいという次元のものだと言われている⁵。

我が国における住民組織と SC を関連付けた先行研究としては、住民組織活動を通じた地域の SC の醸成・活用における課題を明らかにした研究⁶や健康推進員に地域の SC を尋ねた研究⁷、老人クラブ連合会の会員個人の SC を測定した研究⁸などがある。しかし、住民組織自体の SC を明らかにした研究はみられなかった。そこで本研究は、住民組織のメンバーが所属する組織において、どのような場面で結合型 SC と橋渡し型 SC を感じているかを明らかにすることを目的とした。これより、住民組織における SC をさらに醸成するための具体的な方策を検討できると考えた。

2. 研究方法

1) 研究対象

A 県内にある 4 市町の保健師より住民組織を紹介してもらい、その組織の代表者のうち本研究

の主旨・方法に同意が得られた 12 団体 15 名を対象とした。

2) 調査方法

半構成的面接を行った。対象者に対し研究者 1 名が面接し、インタビューガイドに従って聞き取りを行った。面接は対象者が指定した場所で行い、対象者の了承を得てインタビュー内容を録音した。調査期間は、2013 年 10 月～12 月であった。インタビューの問いは、「組織内のメンバーに対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（結合型 SC）を感じる場面」、「他組織・他者に対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（橋渡し型 SC）を感じる場面」であった。

3) 分析方法

分析は、質的記述的研究方法を参考にして行った⁹。インタビュー内容は逐語録を作成した。「組織内のメンバーに対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（結合型 SC）」および「他組織・他者に対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（橋渡し型 SC）」を感じていると判断できる部分を抜き出してコード化した。内容の類似性によりまとめ、サブカテゴリーを抽出し、さらにカテゴリーを抽出した。分析は研究者 1 名で行い、分析後に、保健師としての業務経験者 5 名に内容の妥当性を確認した。

4) 倫理的配慮

対象者には、事前に市町の保健師から調査協力を依頼した。また、対象者には調査前に文書および口頭で、研究の目的および手順、自らの意思で研究に参加できること、同意後でもいつでも参加を撤回できることを説明した。さらに、参加拒否や撤回により不利益を被らないこと、結果を発表する意図があることを誓約し、文書にて同意を得た。

本研究は、熊本大学大学院生命科学研究部等疫学・一般研究倫理審査会の承認を受けて実施した（倫理 737 号）。

3. 結果

1) 研究対象の属性（表 1）

研究対象となった住民組織および対象者の属性は、表 1 のとおりであった。対象グループは 12 団体で、食生活改善推進員¹⁰4 団体、健康づくり推進員¹¹1 団体、老人クラブ連合会¹²4 団体、子育てグループ 3 団体であった。子育てグループの内訳は、育児サークル 2 団体¹³、子育て支援グループ（NPO 法人）1 団体¹⁴であった。10 団体は代表者 1 名が回答したが、2 団体は複数名での回答となったため、対象者は 15 名であった。性別は女性 10 名、男性 5 名であり、食生活改善推進員と子育てグループはすべて女性、老人クラブ連合会の 6 名のうち会長である 4 名はすべて男性であった。年代は、30 代 2 名、40 代 1 名、50 代 2 名、60 代 4 名、70 代 3 名、80 代 3 名であった。子育てグループは 30 代～50 代、食生活改善推進員、健康づくり推進員は 50 代～60 代、老人クラブ連合会は 70 代～80 代であった。

表1 研究対象の属性

No.	組織の種類	所属自治体	研究対象者の基本的属性
1	食生活改善推進員	A町	60代・女性
2	食生活改善推進員	B町	60代・女性
3	食生活改善推進員	C市	60代・女性
4	食生活改善推進員	D市	50代・女性
5	健康づくり推進員	A町	60代・男性
6	老人クラブ連合会	A町	80代・男性 80代・女性 80代・女性
7	老人クラブ連合会	B町	70代・男性
8	老人クラブ連合会	C市	70代・男性
9	老人クラブ連合会	D市	70代・男性
10	子育てグループ (育児サークル)	C市	30代・女性
11	子育てグループ (育児サークル)	D市	40代・女性 30代・女性
12	子育てグループ (子育て支援グループ)	B町	50代・女性

2) 組織内のメンバーに対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（結合型 SC）を感じる場面（表 2）

組織内のメンバーに対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（結合型 SC）を感じる場面として、コード 26、サブカテゴリー12、カテゴリー4 が抽出された。カテゴリーおよびサブカテゴリー、コード、関連事例の番号を表 2 に示す。

カテゴリーは、【メンバーが活動目的を理解し、主体的に活動できている】、【メンバーの立場を尊重した活動ができている】、【メンバー間に支え合いの関係がある】、【特定の地区、時間、メンバーを超えた交流がある】であった。表記は【 】カテゴリー、< >サブカテゴリー、“ ”対象者の語り、（ ）筆者による補足を示している。

(1) 【メンバーが活動目的を理解し、主体的に活動できている】

このカテゴリーは、〈メンバーが自主性と責任感を持っている〉、〈メンバーが活動目的を理解している〉、〈メンバー間で情報の共有ができている〉の3サブカテゴリーで構成された。

メンバーは活動目的を理解して、自主性と責任感を持ち活動に参加していた。これにより、メンバー間の団結を感じ、運営がスムーズに進んでいることが語られた。また、メンバー同士で活動の振り返りをしたり、各地区の活動状況を共有することの重要性が語られた。

“年に1回反省会をして3月に色々な話し合いを、今年1年どうだったかということをしています。だから、意外と（メンバーに活動を）頼める、信頼感がある。”（No.3）

(2) 【メンバーの立場を尊重した活動ができている】

このカテゴリーは、〈メンバーができる範囲での参加が認められている〉、〈メンバーの持つ知識や技術を活かしている〉、〈性別や年代の違いを受け入れて活動できている〉の3サブカテゴリーで構成された。

メンバーは活動への参加を強要されるわけではなく、自身の予定と組織活動のスケジュールを調整しながら参加していた。また、メンバーの得意分野や他の所属組織での取り組み等を参考にしながら活動を展開していた。さらに、年代の違いに関しては、高齢メンバーに参加の継続をお願いしたり、若手メンバーの意見を尊重する姿勢があった。一方で、性別の違いに関しては、女性が多い組織の中で、少数派の男性が馴染めない現状が語られた。

“（メンバー間の関係が深まったということは）あまりないんですよ。男ならやっぱり何でも言えるけれども、ほとんど（のメンバー）が女だもんだから。”（No.5）

(3) 【メンバー間に支え合いの関係がある】

このカテゴリーは、〈メンバーの困りごとを解決できる関係がある〉、〈リーダー・役員とメンバー間に支え合いの関係がある〉の2サブカテゴリーで構成された。

子育てグループでは、自身の悩みを相談し合ったり、困りごとがあったら気兼ねなく頼んだりできる関係が築かれていた。食生活改善推進員と老人クラブ連合会では、メンバーを信頼して活動を全面的に任せたり、次期リーダーや役員のために活動上の問題解決に取り組んでいた。一方で、リーダーや役員のなり手がいないことが語られ、特に老人クラブ連合会では、地区単位のクラブが解散してしまうケースがあった。

“区によっては本当に（役員の）なり手が無い。「そういうの（役員）せなんなら、俺はもう老人クラブをやめる。」というようなことになっていくんですね。そうするといつまでも（役員を）やめられない。”（No.9）

(4) 【特定の地区、時間、メンバーを超えた交流がある】

このカテゴリーは、〈メンバー間に地区を超えた交流がある〉、〈メンバー間に活動以外での交流

がある)、〈メンバーが活動に賛同する新しい仲間を連れてくる〉、〈旧メンバーとも交流がある〉の4サブカテゴリーで構成された。

老人クラブ連合会では、メンバー数が多いため地区単位老人クラブ間での交流を図っていた。子育てグループでは、活動時間以外の場でも交流があることや、以前のメンバーも参加できる“同窓会”を開いていることが語られた。食生活改善推進員では、メンバーが友人を活動に誘って一緒に参加することにより、新たなメンバー獲得を図っていることが語られた。

“「私たちが何かをする時には、よか事業と思うなら、お友達ば誘って。」というふうに。そうやって若いお母さんたちに一人でも賛同してもらおうと、そのお母さんが、何か私たちがする時に「友達を連れてきました。」とか、幼稚園の親子料理教室の時には、5、6人誘ってこられるので、そういう先を見据えたつながりはしているつもりです。” (No. 4)

表2 組織内メンバーに対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（結合型 SC）を感じる場面

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	グループNo.
メンバーが活動目的を理解し、主体的に活動できている	メンバーが自主性と責任感を持っている	メンバーが自主性と責任感を持っている	1,2,8
	メンバーが活動目的を理解している	メンバーが活動目的を理解して、活動に協力する／メンバー間の団結があり、運営がスムーズにできている	3,4,9
	メンバー間で情報の共有ができている	メンバー間で活動の振り返りを行う／地区ごとの活動状況について情報を共有する	3,5,12
メンバーの立場を尊重した活動ができている	メンバーができる範囲での参加が認められている	活動への参加はできる限りよく、強要されない／メンバーが自身の予定を調整しながら、補い合って活動をしている	1,2,3,4
	メンバーの持つ知識や技術を活かしている	メンバーの得意分野を活かして活動ができている／メンバーが他の所属組織での取り組みを活かして活動ができている／メンバー間で知恵やアイデアを出し合いながら活動を進める	1,4,6,7
	性別や年代の違いを受け入れて活動できている	男性は少人数のため女性の多い組織に馴染めない／高齢のメンバーにも参加を継続してもらえるように働きかける／異なる世代の意見を尊重して受け入れる	2,3,5,8
メンバー間に支え合いの関係がある	メンバーの困りごとを解決できる関係がある	メンバー同士で気兼ねなく頼める関係が築けている／メンバー間に悩みを相談したり、愚痴を話せる関係がある／活動中にメンバーの子どもの面倒を見る	10,11,12
	リーダー・役員とメンバー間に支え合いの関係がある	メンバーのおかげでリーダーを務めることができている／リーダーがメンバーの役割・能力を見て、活動を任せることができている／後を継ぐメンバーのことを考えて、活動上の問題が解決するように努める／活動には協力的でも、リーダーや役員にはなりたがらない／リーダーや役員のなり手がいないため、同じ者が長年務めたり、組織が消滅する	1,2,3,6,8,9
特定の地区、時間、メンバーを超えた交流がある	メンバー間に地区を超えた交流がある	地区単位や地区を超えてメンバーが交流する機会がある	7,8,9
	メンバー間に活動以外での交流がある	活動以外の場面でも声をかけあう関係がある	11
	メンバーが活動に賛同する新しい仲間を連れてくる	メンバーが友達を誘って参加する	4
	旧メンバーとも交流がある	旧メンバーとも連絡をとり同窓会を開く／子どもが通園中で母親のみの参加でも受け入れる	10,11

3) 他組織・他者に対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（橋渡し型 SC）を感じる場面（表3）

他組織・他者に対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（橋渡し型 SC）を感じる場面として、コード44、サブカテゴリー17、カテゴリー6が抽出された。

カテゴリーは、【他組織と対等な関係で活動できている】、【他組織からの援助のおかげで活動ができている】、【他組織とお互いのメリットをふまえて活動している】、【活動を通して参加者や他組織から学びを得る】、【ネットワークを築き、活動の広がりを図る】、【地域づくりに貢献する】であった。カテゴリーおよびサブカテゴリー、コード、関連事例の番号を表3に示す。

(1) 【他組織と対等な関係で活動できている】

このカテゴリーは、〈他組織と気兼ねなく相談できる関係にある〉、〈他組織と役割を分担して一緒に活動できている〉の2サブカテゴリーで構成された。

行政や社会福祉協議会とはいつでも何でも相談できる関係であるが、その組織に頼ることなく、役割を分担しながら一緒に活動する姿勢をもっていた。

“何かがある度に〇〇課に。なんかすごい市の人って敷居が高かったりしますよね。何か言ってもつっけんどんにされるとか。でも、それ（一緒に活動したこと）を機会にすぐ入りやすくなって。（課の担当者に）こうしたいんだけどと言ったら、いいんじゃないとか、こうしてほしいと要望まで言って。”（No. 10）

(2) 【他組織からの援助のおかげで活動ができている】

このカテゴリーは、〈他組織の協力を得て、メンバーや参加者を集める〉、〈他組織から活動資金の援助を受ける〉、〈他組織から活動場所や移動手段の援助を受ける〉、〈他組織から事務運営の支援を得る〉の4サブカテゴリーで構成された。

住民組織においてメンバーや活動の参加者となる「人」を集めることは悩みの種であり、その「人」集めに他組織の協力を得ていた。特に中年層を対象とした活動の実施が難しいことが語られた。その他に、行政や社会福祉協議会から、活動資金や活動場所、移動手段の援助を受け、2団体は事務運営も担当してもらっていた。

“（組織活動を紹介する）チラシしもどこそこ、毎月出るお便りも産婦人科とか小児科とか、色んなところに置いてあるので、それを見て（新しい人が自分達の組織に）来るきっかけになっていると思う。”（No. 11）

“（活動の参加者として）100%集められないですよ、40代なんて。だから、そういう時は、老人会の方をお願いして、40代は集められないにしても、60代、70代の方で集めたりとか。”（No. 1）

(3) 【他組織とお互いのメリットをふまえて活動している】

このカテゴリーは、〈他組織からの依頼を受け入れる〉、〈他組織の事業を上手く活用する〉の2サブカテゴリーで構成された。

住民組織は、行政や社会福祉協議会、保育園、学校、他種の住民組織など様々な組織からの活動依頼を積極的に受けていた。このように他組織に協力することは、活動資金の調達や組織の宣

伝の機会になると捉えていた。また、民間企業の開講講座などを上手く活用することで、活動を充実させていた。

“〇〇県がこういうのをしますよと言った時は協力してするから、事業費も頂いてするんだけど。農業フェアとか健康フェアとかありますね。ああいう時はもう必ず要請があるから出ていきますよ。”(No. 2)

“〇〇病院もよく(出前講座に)来るんですね。〇〇製薬とかですよ。あとは〇〇(医療機関)からも来てもらったですね。出前講座があるんですよ、(受講料)ただの分が。”(No. 8)

(4) 【活動を通して参加者や他組織から学びを得る】

このカテゴリーは、〈他組織や参加者から学びを得ている〉、〈同種の住民組織と交流を図る〉の2カテゴリーで構成された。

活動をとおして、参加者である子どもや障がい者などから学びを得ていることが語られた。また、他種の住民組織や保育園、学校と一緒に研究会等を実施することで学びの相乗効果を実感していた。さらに、同じ町内や他の市町村にも存在する同種の住民組織と情報交換をし、活動の参考にしていた。

“食を通してアレルギーの子から勉強させてもらっていることかなと。そういうことを思うと、格好つけだけど、活動をさせてもらっている対象者からいっぱい学びます。”(No. 4)

“年に1回料理教室は開くんですけども、やっぱり食改(食生活改善推進員)の方にお願ひして、一緒に色々。栄養面も、やっぱり年を取ってもちゃんとしなければいけないみたいなことを教わりながら、一緒にしております。これも楽しいです。”(No. 6)

(5) 【ネットワークを築き、活動の広がりを図る】

このカテゴリーは、〈地域で活躍している人や組織とのつながりを維持できている〉、〈他組織と同じ目的・方針で活動できている〉、〈多様な組織と地域の課題解決のために活動できている〉、〈ネットワークの構築には主導者と理解者が必要である〉の4サブカテゴリーで構成された。

3団体では、多様な組織と地域の課題を解決するための活動をしていることが語られた。また、育児支援グループでは、地域で活躍している人や組織に対して、顔が見える関係づくりや継続して協力してもらえるような活動を展開していた。しかし、ネットワークを構築していくうえで、行政の方針と意見が合わないことや、横のつながりを築くのが難しいことが問題点としてあげられ、主導者(組織)や理解者が必要であることが語られた。

“ネットワーク会議だから、区長さん、老人会長、高齢者相談員、民生委員、シルバー

ヘルパーが集まって、例えばうちの場合は、ここ（公民館）に集まって、この地区の高齢者の状況の情報をみんなで共有しようということ。あそこの人はちょっと認知症が出てきましたよという話をするわけ。そうすると、地域包括支援センターから保健師さんがすぐ訪問して、調査して介護度を計算したりする。”（No. 7）

“（ネットワークづくりを）行政が主導でいってもなかなか上手くいくかどうか分からないので、民間と一緒にやろうというところで話をしたんですけど。町の担当の方が、まだ理解が進んでないみたいで。”（No. 12）

表3 他組織・他者に対する信頼や互酬性の規範、ネットワーク（橋渡し型 SC）を感じる場面

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	グループNo.
他組織と対等な関係で活動している	他組織と気兼ねなく相談できる関係にある	行政や社会福祉協議会にいつでも何でも相談できる	1,2,4,6,10
	他組織と役割を分担して一緒に活動している	行政と役割分担をする／行政に頼りきるのではなく、自分達にできることは担っていく／行政と一緒に活動をする関係を築いている	1,2,3,8
他組織からの援助のおかげで活動ができています	他組織の協力を得て、メンバーや参加者を集めることができる	社会福祉協議会を仲介して自分達の組織を紹介してもらい／行政の広報紙や事業を通して活動を紹介してもらい／行政の事業の中で活動を紹介する場を設けてもらい／関連機関に、組織を紹介するチラシを置いてもらい／学校や地縁組織、趣味のサークルに、参加者が集まるように協力を得る	1,2,8,10,11,12
	他組織から活動資金を援助を受けている	行政や社会福祉協議会から活動資金の補助を受けている	3,6,9,10
	他組織から活動場所や移動手段の援助を受けている	公共施設のパスを利用する／公共施設や保育園、医療福祉施設の一室を活動場所として提供してもらう	8,10,11
	他組織から事務運営の支援を得ている	行政や社会福祉協議会が事務局を担っているため、安心して活動ができる	3,6
他組織とお互いのメリットをふまえて活動している	他組織からの依頼を受け入れる	行政や社会福祉協議会からの活動依頼を積極的に受け入れる／保育園や学校、地縁組織の活動に協力する／行政の動員要請に協力する／行政の求めに応じて、情報提供をする	1,2,3,4,7,8,9,10
	他組織の事業を上手く活用する	民間企業の地域貢献事業を活用する／行政や社会福祉協議会の事業に参加して、組織を宣伝する／行政や社会福祉協議会から業務の委託を受けて活動資金を得る	1,2,6,8,12
活動を通して参加者や他組織から学びを得る	他組織や参加者から学びを得ている	障がい者（グループ）との交流を通して、自分や家族の健康・介護を考える／活動の参加者から多くのことを学ぶ／他種の住民組織との活動を通して学ぶ／同種の住民組織、保育園や小・中学校と一緒に学ぶ機会を持つ／行政や社会福祉協議会の職員から知識を得る	3,4,5,6,7,8,9,10,12
	同種の住民組織と交流を図る	他市町村の同種の住民組織と交流を図る／同市町村の同種の住民組織と交流を図る	3,6,8,10
ネットワークを築き、活動の広がりを図る	地域で活躍している人や組織とのつながりを維持できている	地域で活躍している人や組織と顔が見える関係づくりをする／地域で活躍している人や組織に継続して協力してもらえように関わる	12
	他組織と同じ目的・方針で活動できている	行政の方針と意見が合わない／民間企業と一緒に新しいものを作り出す	1,3,4,10
	多様な組織と地域の課題解決のために活動している	多様な組織と情報を共有し、地域の課題解決のために活動している	7,8,12
	ネットワークの構築には主導者と理解者が必要である	横のつながりを築くのが難しい／ネットワークの構築には主導者（組織）が必要である／ネットワークの構築には行政の理解と協力が必要である	12
地域づくりに貢献する	地域の子ども・高齢者・障がい者を支える	障がい者の自立を支援する活動をする／医療福祉施設に入所している高齢者と交流を図る／一人暮らし高齢者の見守り活動を行う／地区の高齢者サロンに協力する／保育施設の子どもと交流を図る／子どもと異世代交流を図り、歴史や伝承遊び等を教える／地区の子どもの誕生日にお祝いをする	1,2,3,4,6,7,8,9
	地域の行事に積極的に参加する	地区の祭りや運動会などの行事に積極的に参加する	4,9
	地域の環境美化のために活動する	地区の美化・清掃活動や仏堂等の管理を行う	6,7,8

(6) 【地域づくりに貢献する】

このカテゴリーは、〈地域子ども・高齢者・障がい者を支える〉、〈地域の行事に積極的に参加する〉、〈地域の環境美化のために活動する〉の3サブカテゴリーで構成された。

老人クラブ連合会では、一人暮らし高齢者の見守りや高齢者サロンへの協力が行われていた。また、子どもには歴史や伝承遊び等を教え、異世代交流を図っていた。さらに、シルバーパトロールという名称で、PTA（保護者）と一緒に小学生の登下校を見守っていたり、地区の子どもに対して誕生日に赤飯を配ったりしていた。他にも、仏堂やお寺、町内の清掃活動や、道路や公園に花を生ける活動をしている団体があった。食生活改善推進員では、食育のための料理教室での子ども達とのふれあいが活動の推進力になっているとの語りが聞かれた。D市の老人クラブ連合会と食生活改善推進員は、地区の祭りや運動会等に参加協力していることが語られた。

“そこ（知的障がい者のグループ）の方たちが学校に行っている間は守られているんだけど、いずれ親御さんより手を離れてしまうでしょう。自分でも何とか食べていかなければ生きていけないので、食に対して何らかの認識を持ってもらいたいということで。これは15、6年になりますかね、親子の料理教室。小学生対象の親子料理教室でも構わないので、知的障がい者の方たちの中で料理教室を実施してもらいたいと言われるので。〇〇市全部の知的障がい者の方たちが、やっぱり親御さんを含めて60人ぐらい来られるんですよ。そこで料理教室をしているんですが、そこは料理だけじゃなくて、その知的障がい者の方たちと町中での触れ合いができる。”（No. 4）

4. 考察

1) 組織内のメンバーに対する信頼や互酬性、ネットワーク（結合型SC）を感じる場面

【メンバーが活動目的を理解し、主体的に活動できている】、【メンバーの立場を尊重した活動ができている】、【メンバー間に支え合いの関係がある】の3項目は、小山らの「健康推進員のエンパワメント尺度」における因子の1つである「民主的な組織活動」¹⁵と一致する内容であった。よって、住民組織においては、民主的な組織活動が“信頼”と“互酬性の規範”を生み出し、さらに“ネットワーク”では【特定の地区・時間・メンバーを超えた交流がある】ことで結合型SCが醸成すると考える。

今回の住民組織が結合型SCを醸成するうえでの課題は2つあげられる。

1つ目は、〈性別や年代の違いを受け入れて活動できている〉のうち、性別の違いが上手く受け入れられていないことである。本研究では、少数派である男性メンバーが肩身の狭い思いをしている現状が語られた。これは、女性のみでの結束が強くなった結果であると推察する。積極的にSCを醸成するためには、男性と女性の違いを認識した戦略を打ち出すことが必要である¹⁶。今後は、性別や年代などにおいて少数派にあるメンバーが、意見を尊重され、活動しやすいと感じるような組織づくりが求められる。

2つ目は、〈リーダー・役員とメンバー間に支え合いの関係がある〉が、リーダーや役員のなり

手がないことである。住民組織のリーダーは、メンバーの支えのおかげで役割を遂行できていると語る一方で、リーダーや役員のみ手がないことに苦慮していた。リーダーにとって、メンバーからの支援が欠如していることは活動上の負担となる¹⁷。また、この「後継者不足」の問題は、健康推進員の活動阻害要因¹⁸としても挙げられている。リーダーや役員の負担が軽減され、後継者が自然と出てくるような支え合いの関係を築く必要がある。

2)他組織・他者に対する信頼や互酬性、ネットワーク（橋渡し型 SC）を感じる場面

【他組織と対応な関係で活動している】は、河原田らの「地域保健活動の推進に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度」の因子の1つ「まちの専門職への親和性」¹⁹に類似する内容であった。これは、行政や社会福祉協議会等とは、上意下達の垂直的なつながりでなく水平的なつながりを築くことで、橋渡し型 SC が醸成する可能性を示している。また、【他組織からの援助のおかげで活動ができている】は、他組織から活動する上での物理的なリソースの支援を受けていることへの感謝の気持ちの表れである。そして、それは他組織への協力等の【他組織とお互いのメリットをふまえて活動している】という“互酬性”の行動につながっていた。さらに、【活動を通して参加者や他組織から学びを得る】も“互酬性の規範”であると捉えることができる。住民組織のメンバーは、活動を通してサービスの提供者（与え手）となるだけでなく、参加者などから「学び」といった目に見えないものも含めた様々な恩恵を受ける（受け手）にもなっていると感じ取っていた。“信頼”“互酬性の規範”“ネットワーク”はそのいずれかが増えると他のものの増えるという相互強化的な関係をもっている²⁰ため、上記のような“互酬性の規範”を感じる場面を経験することにより、他組織・他者への更なる“信頼”や“ネットワーク”の構築へとつながると考える。

【地域づくりに貢献する】も、先に述べた河原田らの測定尺度の「地域の人々の信頼と支え合い」の一部²¹および「地縁による関わり」²²と一致する内容であった。これらのことより、住民組織における橋渡し型 SC が醸成することは地域保健活動の推進に結びつくことが推察された。

今回の住民組織が橋渡し型 SC を醸成するうえでの課題は2つあげられる。

1つ目は、【ネットワークを築き、活動の広がりを図る】うえでの行政との関係である。本研究では、すべての住民組織が行政と関わりを持っていた。しかし、ある住民組織において、行政の急な方針の変更が原因となり、行政への不信感を高めていた。また、地域の課題を解決するためには、さらなるネットワークを構築する必要があるが、行政の理解と協力が不十分だという語りもあった。行政の頻繁な戦略の変更²³や行政の援助・理解不足²⁴、行政と住民組織との考え方のズレ²⁵は、住民組織の活動に影響を及ぼす。以上のことより、行政は住民組織の良き理解者となり、行政・住民組織双方が活動方針等に納得のうえで、協力して地域課題の解決に取り組むことが求められる。

2つ目は、橋渡し型 SC における青年層と中年層の欠如である。青年層や中年層は、学校や職場が居住地と異なることや生活時間のほとんどを学校や職場で過ごすため、地域とのつながりが希薄になる。しかし、この地域とのつながりに乏しい空白の期間により、自分達も地域を構成する一員だという認識が薄れ、それが地縁組織の加入率減少の要因の1つにもなっていると考える。このような現状を改善していくためには、青年層や中年層も地域との関わりが持てるようなアプ

ローチが必要である。大西らは、中年層には既に構築している友人・近隣関係を活用して地縁活動やボランティア活動への参加支援を行うことが有効であると述べている²⁶。また、米国での健康増進のための異世代間プログラムでは、高齢者の Experience Crops（体験隊）と学校との相互作用により SC が形成されたと結論づけている²⁷。このプログラムには、住民組織がつながる仕組みを意図的につくる仲介者（調整機関）が存在する。今回、住民組織が多く関わっている機関は行政と社会福祉協議会であった。これらの機関が仲介者となり、青年層や中年層と住民組織をつなぐ仕組みを構築することにより、橋渡し型 SC のさらなる醸成が期待できると考える。

5. 本研究の限界と今後の課題

今回の調査は、A 県内の 4 市町に限定された住民組織を対象としているため、一般化することには限界がある。また、複数の種類の住民組織をまとめて分析したため、組織の種類ごとの SC の特徴まで見出すことはできなかった。今後は、住民組織の種類によって SC を感じる場面に違いがあるかを明らかにしたい。これらの限界はあるものの、住民組織のメンバー自身が所属する組織の SC をどのように感じ取っているか、当事者の目線に立った調査・分析ができた意義は大きい。また、SC の認知的側面と構造的側面の 2 つの理論的概念も反映したカテゴリーを抽出できたと考える。

本研究にご協力くださいました住民組織の皆様、保健師の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本研究に関して開示すべき利益相反状態はありません。

本研究は 2013 年度～2019 年度科学研究費助成事業助成金（若手研究（B）：課題番号 25870535）の助成を受けて実施しました。

¹ 本論文では、SC を「人々の間や組織の間における“ネットワーク”とそこに存在する“信頼“や”互酬性の規範“といった社会集団の特徴」と定義する。（稲葉陽二，大守隆，近藤克則，他編著．ソーシャル・キャピタルのフロンティア—その到達点と可能性—．東京：ミネルヴァ書房，2011．Ichiro Kawachi, S.V.Subramanian, Daniel Kim／藤澤由和，高尾総司，濱野強訳．ソーシャル・キャピタルと健康．東京：日本評論社，2008．Ichiro Kawachi, Soshi Takao, S.V.Subramanian／高尾総司，近藤尚己，白井こころ，訳．ソーシャル・キャピタルと健康政策 地域で活用するために．東京：日本評論社，2013．を元に筆者にて定義）

² 「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」では、SC 醸成の核となる住民組織等を支援、活用することが重要であると明記されている。〔厚生労働省．地域保健対策の推進に関する基本的な指針の一部改正について．厚生労働省健康局長通知 健発 0731 第 8 号．平成 24 年 7 月 31 日．<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000050854.pdf>（2021 年 1 月 22 日アクセス可能）〕。

³ Robert D. Putnam. 2000／柴内康文訳．孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生．東京：柏書房，2006；19—21．

- 4 Ichiro Kawachi, S.V.Subramanian, Daniel Kim. 2008/藤澤由和, 高尾総司, 濱野強訳. ソーシャル・キャピタルと健康. 東京: 日本評論社, 2008; 15.
- 5 Robert D. Putnam. 2000/柴内康文訳. 前掲書 3.
- 6 藤内修二. 住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタルの醸成・活用の現状と課題 報告書. 平成 25 年度 健康安全・危機管理対策総合研究事業. 日本公衆衛生協会. 2014.
http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_10_00.pdf (2021 年 1 月 24 日アクセス可能).
- 7 林千景, 前馬理恵, 山田和子, 他. 現健康推進員, 既健康推進員, 非健康推進員のヘルスリテラシー, ソーシャルキャピタルおよび健康行動の特徴. 日本公衆衛生雑誌 2018; 65 (3): 107-115.
- 8 関根薫. 老人クラブにおけるソーシャル・キャピタルの測定と関連要因についての考察. 皇學館大学『日本学論叢』2020; 10: 141-161.
- 9 グレグ美鈴. 質的記述的研究. グレグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江, 編著. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして. 東京: 医歯薬出版, 2013: 56-57.
- 10 食生活改善推進員は、食を通じた健康づくりを行うボランティアである。市町村で行われる 20 時間程度の養成講座を修了後に、市町村食生活改善推進員協議会の会員となり活動する。1995 年から男性会員の加入が認められた。主な活動は、食育の推進と普及・啓発、食事バランスガイドの普及・啓発、健康日本 21 の推進である。2020 年 4 月現在、全国 1,301 市町村に協議会組織があり、会員は約 13 万人である。〔日本食生活協会. 食生活改善推進員とは.
<http://www.shokuseikatsu.or.jp/kyougikai/index.php> (2021 年 1 月 23 日アクセス可能) 〕
- 11 健康づくり推進員は、市町村によって類似する名称で活動している場合がある。58.0% の自治体に設置されているが、全国的な組織化は進んでいない。主な活動は、健診受診勧奨や啓発用資料の配布、地区の行事等と連携した健康づくり等である (藤内修二. 前掲書 6)
- 12 老人クラブ連合会は、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織である。老人福祉法 (1963 年施行) に老人福祉を増進するための事象を行う組織として位置づけられている。会員は入会を希望する高齢者で、概ね 60 歳以上を対象としている。小地域ごとの老人クラブ (単位クラブ) を核に、市町村、都道府県・指定都市、全国の段階に老人クラブ連合会を組織している。2019 年 3 月末現在、全国 95,823 クラブ、会員数 5,245,723 人である。〔全国老人クラブ連合会. 老人クラブについて.
<http://www.zenrouren.com/about/index.html> (2021 年 1 月 22 日アクセス可能)〕
- 13 活動目的は、「食育」(No.10)、「子どもと一緒に体力づくりをすること」(No.11)であった。
- 14 活動目的は、子育て支援および親子の交流の場の提供等であった。
- 15 「民主的な組織活動」の構成項目は、①構成員の意見や気持ちを尊重し一人ひとりの構成員を大切にしている、②構成員同士に協力し合える関係が出来ている、③構成員同士が思いや困っていることを話し合える関係が出来ている、④組織の運営や活動に関する意思決定は構成員の合意のもとで行っている、である。〔小山歌子, 村山伸子. 健康推進員のエンパワメント評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58(8): 617-627.〕
- 16 地域保健対策におけるソーシャル・キャピタルの活用のあり方に関する研究班. 住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き. 平成 26 年度厚生労働科学研究補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業. 日本公衆衛生協会. 2015: 22 .
http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_10_1_01.pdf (2021 年 1 月 23 日アクセス可能).
- 17 Yueh-Mei Gau, Petra Buettner, Kim Usher, et al. Development and validation of an instrument to measure the burden experienced by community health volunteers. *Journal of Clinical Nursing* 2012; 23: 2740-2747.
- 18 藤井志穂里, 滝本あすか, 中山貴美子, 他. 健康推進員が地域で健康づくり活動を継続する要因に関する研究. 保健師ジャーナル 2012; 68(5): 416 - 422.
- 19 「まちの専門職への親和性」の構成項目は、①まちの保健師や栄養士を頼りにしていますか、②まちの保健センター (役所) を気軽に利用できますか、③まちの保健師に気軽に相談できますか、である。〔河原田まり子, 本田光, 田仲里江, 他. 地域保健活動の推進に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発. 日本公衆衛生看護学会誌 2017; 6(2): 132-140.〕
- 20 空閑睦子. ソーシャルキャピタルに関する先行研究の整理—今日までにおける定義の概要と文献サーベイから見た日本の研究の動向—. 千葉商科大学 CUCpolicy studies review 2010; 27: 39-

49.

²¹ 「地域の人々の信頼と支え合い」は7項目で構成されているが、その中の3項目①ご近所の人には体の弱い高齢者の様子を気にかけていますか、②ご近所の人々は子どもの安全を見守っていますか、③ご近所の人々は孤立しがちな人を気にかけていますか、が一致していると考え。〔河原田まり子, 本田光, 田仲里江, 他. 前掲書 19〕

²² 「地縁による関わり」の構成項目は、①町内会活動に積極的に参加していますか、②お祭りや運動会など地域行事に参加していますか、である。〔河原田まり子, 本田光, 田仲里江, 他. 前掲書 19〕

²³ Yueh-Mei Gau, Petra Buettner, Kim Usher, et al. 前掲書 17.

²⁴ 地域保健対策におけるソーシャル・キャピタルの活用のあり方に関する研究班. 前掲書 16 : 66.

²⁵ 斉藤進, 小山修, 中村敬, 他. 母子保健・福祉を中心とする地域組織活動の評価に関する研究 地域組織活動の評価法に関する研究(3). 日本子ども家庭総合研究所紀要 2005 ; 42 : 127-145.

²⁶ 大西恵理, 後閑容子, 石原多佳子. 中壮年期のソーシャルキャピタルの構成要素と地域共生意識との関連. 日本公衆衛生看護学会誌 2016 ; 5(1) : 37-46.

²⁷ Thomas A.Glass, Marc Freedman, Carlson MC, et al. Experience Crops : Design of an Intergenerational Program to Boost Social Capital and Promote the Health of an Aging Society, Journal of Urban Health 2004 ; 81(1) : 94-105.